

# 建設CALS／ECに関する講習会開催される

総務委員会

平成11年6月21日、「建設CALS／ECに対する業界標準システムの構築に向けて」というサブタイトルで、建設CALS／ECに関する講習会がホテル仙台プラザにおいて開催されました。

講習内容は4テーマに分かれておりました。

- ① 「建設CALS／ECの現状と地質調査業の取り組み」と題して、矢島壮一全国地質調査業協会連合会専務理事の講演
- ② 地質調査成果物の電子化と題して、小林俊樹 全地連「情報・通信ワーキンググループ」委員の講演
- ③ モバイルコンピューティングと題して、原口強 全地連「業界標準システム構築委員会」委員の講演
- ④ 開発システムのデモンストレーションと題して、矢島壮一全地連専務理事の講演

建設省は平成9年6月に「建設CALS／ECアクションプログラム」を策定し、平成10年6月には「PM（プロジェクトマネジメント）を活用した建設CALS／ECアクションプログラム」を示しました。これによって、建設CALS／ECの早期導入が現実となり、営業関係の参加者、技術関係の参加者ともに講師の方の熱演を真剣に聞き入っていました。

営業関係としては、建設CALS／ECが導入されると、現説・入札の一部または多くがパソコンで行われるようになるため、システムを理解していないと現説・入札には参加できない時代が来るとのことでした。

技術関係では、報告書の内容をすべて電子媒体に収め、HTML方式で提出することが義務付けられ、最終的にはSGML方式での提出が義務付けられるだろうとのことでした。当然、現場写真などもデジタルデータとして入手する必要がある、現場作業の進め方も大きく変わっていくようです。

